



学校だより

令和7年 9月 1日

東京都立村山特別支援学校

校長 阿部 智子

〒208-0012

武蔵村山市緑が丘 1460 番地 1

電話：042-564-2781

「どんどん8月が暑くなっていると思うのですが…」

大変暑い夏でした。35℃以上の高温だと、セミも活動を抑えて鳴かない、急激な高温で羽化できない、という状況になるそうで、確かに今年の夏はセミの鳴き声をあまり聞くことがありませんでした。セミが鳴き止んだ状態は、危険な暑さになったサインと捉え、人間も熱中症にならないように涼しい場所で休憩を取り、水分補給を心掛けなければならないのだそうです。まだ9月になってもこの暑さは続きそうです。体調を整えて2学期の学習を始めましょう。



【令和7年度の夏季休業は充実した研修を実施することができました。】

7月22日（火）東大和警察署生活安全課少年係から、防犯研修の講話とさすまたを使った実技研修に来ていただきました。東大和警察署は、新青梅街道をはさんで、村山特別支援学校の仮設校舎の斜め前にあるので、とても心強く、いつも本校の安全のために様々な御協力をしてくださっています。「子供たちの安全を守る」と同時に臨機応変に教職員が身を守りながら連携を取り、情報を共有していくという、状況判断ができるように訓練を行いました。

7月25日（金）午後は東京都の医療的ケアの流れと歴史について第7代校長 飯野順子先生の御講義を受けました。そもそも医療的ケアとはどういうものであるのか、その時、村山特別支援学校はどのような学校であったのか。医療体制整備事業で村山

養護学校がモデル校となって就学相談体制の整備や、指導医の配置、学校保健体制の整備で研修や手順書の整備が始まりました。2000年前後で、肢体不自由校は子供たちの就学について大きく変化をしました。その渦中にいた村山特別支援学校のその当時の保護者の皆様、教職員、一緒に動いてくださった医療関係の皆様が教育と医療の方法や目標地点の違いを整理して「方向」を示してくれました。決してよい話ばかりではなく、当時の医療体制整備委員会が出された教職員の中



からの不安や疑問、事故が起こった際の責任の所在はどこになるのかなど、実施する大人の問題が、大きく話題となっていたことも語っていただきました。当時から30年近く経過して、医療の状況も日々変わっています。こうした医療的ケアの始まりを全く知らずに教員となっている者、にこやかに就学相談にやってくる子供たち…。肢体不自由特別支援学校としてのキャリアは、校舎が新しく立て替えられて、全て変わってしまうものではありません。

「温故知新」…昔のことをたずね求めて、そこから新しい知識・見解を導くことも大切だと私は考えます。新しい知識だけを取り入れて、頭でっかちにならないように、常に、我々教員の立ち位置を確認しながら、丁寧に子供たちと向き合っていくことが教員に必要なスキルであると考えています。

7月28日（月）午後はアビリティーズジャスコ株式会社から山田和徳様にお越しいただき、学齢期から身に付けていくべき力、就労や社会参加に向けた支援の在り方について講義をいただき、学部ごとのグループ討議を行いました。私は学校経営計画において生活指導・進路指導の【重点目標5】において12年間を視野に入れ、キャリア発達

を支援するという視点にたった進路指導を組織的に行うことを上げています。全校児童・生徒数の増加から知的障害特別支援学校では小学部から高等部まで一つの学校で通えるところは限られるようになりました。村山特別支援学校は、肢体不自由単独校であるからこそ、小学部から高等部まで、じっくりと関われる環境の学校ですから、夏季休業中も話し合いの時間を重視する能動的な研修会ができました。教員の進路研修事後アンケートを読むと保護者との同感ではなく、共感を共有して子供のキャリア形成を行っていくことの重要性をあげていました。卒業後の話だけがキャリア教育ではありませんから、保護者面談でも身近なことから遠慮なく担任とお話してください。



8月26日(火) 午前の医療的ケア研修では、さいわいこどもクリニックの雨宮馨医師から「重症児を支援するための医療の知識」という題でお話しいただきました。本校の指導医でもある雨宮 Dr. は、本校の医療的ケアの状況も子供たちの様子も把握していただいていますので、9月からの実際の対応について実践的にお話をさせていただきました。8月28日(木) 午後は武蔵村山病院小児科の高田大医師からアレルギー研修で食物アレルギーを中心にお話しいたき、エピペンの使用、緊急時対応について、また本校で行われたアナフィラキシー想定搬送訓練への評価をいただきました。高田 Dr. は、このように仮設校舎にも研修にお越しいただき、修学旅行でもお世話になっています。こうした医師の皆様との関係性を構築してきたからこそ現在の村山特別支援学校があると言えます。他にも、東京小児療育病院の先生方には今夏も学校保健委員会、臨床研修で大変お世話になりました。医師の皆様には、今後とも御指導、御協力いただき、村山特別支援学校は、肢体不自由の子供たちの指導に当たってまいります。

【学習指導の研修会…体育、ICT デジタル活用、国語、数学、生活、社会、理科、音楽】



8月26日(火) 午後には、スポーツ教育推進のための指導者育成研修会に国士舘大学 松浦孝明教授をお招きして体育科の教員が競技用車いすの操作、スラローム競技の指導方法、障害者スポーツ大会種目の指導方法等、肢体不自由校におけるスポーツ教育の指導者の役割、育成の在り方について直接的な指導を受けることができました。松浦先生は、以前は筑波大学附属桐が丘特別支援学校体育科の教員で、ハンドサッカー大会の指導もされていました。本校でもそろそろ2月のハンドサッカー大会に向けての指導に、力が入ることと思います。楽しんで取り組んでまいります。



8月28日(木) 午前、デジタル活用実践ワークショップを行い、デジタル機器の活用について専門性向上を目的に、ICTアドバイザーの3名の講師と本校の指導教諭のブースを教員が回りながら体験し研修しました。実際にタブレットやスイッチ、視線入力 of 具体的な使い方を学び、授業へ活用の方策については午後の時間を個別相談として、9月からの授業を想定して準備の時間としました。最新の機器をどう使いこなしていくのか。大人も新たな発想が必要で、付けたい力とどのように連携させていくのかを、取り組んでいくことが重要になります。



8月29日(金) 午前には本校の学校経営計画【学校運営】の重点目標1である、次年度に向けた「学ぶべき内容を学び落とすことのない年間指導計画の作成」ねらいを焦点化した授業づくりについての実践的な話し合い、まとめ合いの研究会を行いました。講師としては前東京学芸大学教職大学院特命教授三室秀雄先生、NPO 法人地域ケアさぼーと研究所椎名久乃先生、関原彩子先生に各教科で分かれているブースでの検討に参加していただきながらシラバスをまとめました。シラバス検討と並行して子供たちの実態把握表を作成し、照らし合わせながら実際に授業をして、再度計画を練り直して、年間指導計画を完成させていきます。

子供たちのことをグループで話し合いながら文章化していくという作業を繰り返しています。この作業がお子様の個別指導計画につながっていきますので、付けたい力を明らかにして、ねらいを焦点化して授業を作るという、その方策についてぜひ個別面談で話題にいただければと思います。

【8月7日(木) ボッチャ甲子園全国大会出場 ひがしんアリーナ：墨田区総合体育館】



村山フェニックスが全国大会に出場しました。本格的にボッチャを始めてまだ日が浅いのですが、昼休みや放課後も部活動を行い、全国大会に出場できるところまでになったことは校長としてはうれしい限りでした。準々決勝に進み、手に汗握る惜しい試合でしたが、次につながる課題も見えました。技を磨いて、仲間と「考えて動く」ボッチャを応援してください。



【第68回全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会総会および PTA・校長会同研究大会「大阪大会」が開催されました】

8月20日(水)～8月21日(木)にグランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)にて、行われました。大変暑い日でしたが、全国から「肢体不自由のある子供たちが一人一人の生きる力を育むために PTA 活動はどうあるべきか」と問いかける研究主題について熱い思いをもって集まっていると感じました。子供たちのためにという思いを強く感じた夏でした。



校長 阿部 智子